

ARC

LECTURE

AND

SEMINAR

SERIES

NO. 2

「What's
Technology
Got to Do with It?」

No. 2

京都市立芸術大学芸術資源研究センターでは、アーカイブに関連する分野の専門家を招いて研究会を開催しています。第二回はキュレーターのバーバラ・ロンドン氏をお招きし、美術館が「今日の芸術」を展示・収集するときに直面する困難についてお話しいただきます。学際的なアプローチが一般的になり、音声を用いた作品も標準的となった今日、現代美術館は概念上、運営上の再編成を強いられています。ニューヨーク近代美術館でのキュレーションの経験から事例を挙げながら、アナログからデジタルへのテクノロジーの移行が、パフォーマンスとインスタレーションが交差する地点で作品に与えた影響について考察していただきます。アーティストがいかにかの音の可能性と政治的な理想を表現する戦略を発展させてきたかを探求するために、スタイナ・ヴァスルカ、ジョーン・ジョナス、ローリー・アンダーソン、ピピロッチェ・リスト、ヤナ・ヴィンデレンといったメディア・アーティストを取り上げる予定です。

第二回 アーカイブ 研究会

それってテクノロジーと何の関係があるの？
バーバラ・ロンドン



Barbara London

バーバラ・ロンドン
キュレーター。1973年から2013年までニューヨーク近代美術館に勤務し、ビデオおよびメディア部門のキュレーターを務める。ナム・ジュン・パイク、ビル・ヴィオラ、スタイナ・ヴァスルカ、ジョーン・ジョナス、久保田成子、ピーター・キャンパス、ゲイリー・ヒル、ヴァリー・エクスポート、ローリー・アンダーソン等の個展を手がける。宋冬、古橋悌二、馮夢波、楊福東等のアジアの作家を初めてアメリカに紹介。イェール大学、ニューヨーク大学、スクール・オブ・ビジュアル・アーツ等で教鞭をとる。Stir-fry (1997年)、dot.jp (1999年)等、早くからインターネットをキュレーションに取り入れたことでも知られる。近年の展覧会に「Soundings: A Contemporary Score」(MoMA, 2013年)がある。

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

2014年8月2日(土)

13:00~15:00

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

※参加無料(事前申込不要・通訳有)

@KCUA
KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY



地下鉄「二条城前」駅(2番出口)徒歩約3分

市バス「堀川御池」バス停下車すぐ

〒604-0052 京都市中京区油小路通御池押油小路町 238-1 <http://gallery.kcuu.ac.jp>

京都市立芸術大学
芸術資源研究センター

お問い合わせ先

京都市立芸術大学芸術資源研究センター事務局

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6

TEL・075-334-2231 / FAX・075-333-8533

mail・arc@kcuu.ac.jp ウェブサイト・<http://www.kcuu.ac.jp/arc>